

耐暑性に優れる早生ロマネスコ

ネオ・スパイラル

ロマネスコ

北海道の秋どりの作型では7月中下旬に定植となるため、生育初期から高温ストレスがかかり、生育にばらつきがでたり、異常高温を受けると収穫時期が1カ月以上遅れることもありました。

「ネオ・スパイラル」は耐暑性に優れるため、生育期間の高温による生理障害の発生が少なく、冷涼地の夏どり～秋どり作型で高い評価を得ました。



「ネオ・スパイラル」の魅力と評価

- ①秋どりではスパイラルより1週間～10日以上早く収穫できる。
- ②生育強健で株揃いが良い。
- ③花蕾は美しく、乱れが少なく花蕾の頂上部分が帯状になりにくい。

6月25日播種、10月9日収穫始め(北海道江別市)



揃いに優れる「ネオ・スパイラル」



花蕾の頂上まで形状が安定する「ネオ・スパイラル」

栽培のポイント

初夏どり栽培では、

- ①しっかり低温に感応するので「スパイラル」より3～5日程度早く収穫できます。
- ②包葉のかぶりは「スパイラル」より弱いので、日焼けしないように、しっかりと樹を作ることがポイントです。
- ③ボトニングを避けるため、無理な早蒔きは避け、育苗期間中に低温にできるだけあてないことがポイントです。



「ネオ・スパイラル」の包葉の様子

「ネオ・スパイラル」なら北海道の8～9月どりでも高い歩留まりが期待できます